

鬼く鷹大江山奇譚

S1 現代

音楽

遠くからパトカーのサイレンが聞こえてくる。
慌ただしく駆け回る警官たちの足音。
それに混じって、テレビのアナウンサーの緊迫した声が聞こえる。

アナウンサーの声　　またも痛ましい事件が起こりました。現場にはまだ多数の死傷者が倒れていま
す。警察と消防による、必死の救護活動が続いています。なお、犯人はまだ凶器を手に
したまま逃走してる模様です。くり返します。犯人は凶器を手にしたまま逃走中です。
近隣の方は…。

倒れている弥三郎と、それを抱きしめる伊吹の姿が見えてくる。
そしてそれを遠くから見つめている呪い師の姿。

静かに流れていた歌声がふと止まる。

呪い師たち　　…ありやあ、鬼だ。

呪い師1　　鬼つてものを知ってるか？昔はそこら中にいたんだが、今はさっぱり見えなくなっちゃま
った。

呪い師2　　人間が、あんまり恐ろしくなったものだから、鬼の出る幕が無くなったのよ。

呪い師1　　…あいつかい？あいつは今でもそこにいるよ。もうかれこれ千年、たった一人で戦い続
けてる。

呪い師2　　死ぬに死ねねえわけがあってね。

呪い師1　　だけど、運命つてやつは残酷だ。何度生まれ変わろうと、二人の行く末は変わらない。

呪い師2　　だからあの子は戦ってるの。永遠に。いつかこの悠久の時の流れが途絶えるまで…。

呪い師1　　あいつの名は伊吹。今から千年の昔、都の為に鬼退治を続けてきた一人の…そう、
呪い師たち　　鬼だ。

雷鳴と共に鬼の姿は消え、伊吹が動き出す。

時代は千年の昔へ。

音楽

S2 都・鬼退治

音楽の中、幾人かの鬼たちが飛び込んでくる。
それは伊吹の鬼退治の情景。

伊吹

覚悟…！

伊吹、鬼を斬る。
呪い師たち、出てくる。

呪い師たち いやあ、お見事お見事。
呪い師1 鬼神のごときはまさにこのことか。
呪い師たち 恐ろしや、恐ろしや。
伊吹 うりや！

伊吹、斬りかかる。

呪い師たち わーっ！
与平1 なんだ、貴様は。
与平2 お前も鬼か。

呪い師たち いやいやいや、
呪い師2 私たちは旅の者よ。呪いなどを生業に諸国を巡って…。

伊吹 うりや！

呪い師たち 待て、待て！ちよっと待て！

呪い師1 お前、いつもそつやつて話も聞かずに人を斬るのか。

与平たち 悪い？

呪い師たち 悪いだら！

伊吹、刀を突きつける。

呪い師たち、びびる。

呪い師2 …分かった。私も覚悟を決めた。

呪い師1 ここはおとなしく斬られよう。

呪い師2 でもあなた、受難の相が顔に出てるわね。男運が良くないんじゃないの？

伊吹・与平たち えー？

呪い師1 好きな人に振り向いてもらえない。

伊吹・与平たち ドキ。

呪い師2 優しくしてもらえない。

伊吹・与平たち ドキ。

呪い師たち そんな時にはこれだ！

懐からお札を取り出す呪い師たち。

呪い師たち 霊験あらたか、レイちゃん印の縁結び札。

呪い師1 これさえあれば、どんな思い人とも結ばれること間違いなし。

呪い師2 普段なら○○とも交換しないとこだけど、

呪い師1 美しいそなたが苦しむ姿は見るに忍びない。

呪い師2 おまけにこのレイちゃん印の恋愛成就マニュアルもつけて、

呪い師たち 出血大サービスだ、持ってけ泥棒！

伊吹・与平たち っいのーっほんとうっ？

呪い師1、よく分からない人を連れてくる。

呪い師2

私たちの仲じゃない。そのお札を持って、思いっきり思い人の胸に飛び込んでいらっし

やい！

呪い師たち

さあ！

黙り込む伊吹と与平たち。

伊吹

だれだ、こいつは！

怒りに任せて斬りかかる伊吹。

与平たち、必死に伊吹を止める。

与平たち

落ち着いてください！

伊吹

うるさい！こいつはオレがぶった斬る。

呪い師2

まあまあ、恋はいつでもハリケーンっていうじゃない。

呪い師1

触れ合ってみなければ人はわからんもんだ。

伊吹

まだ言っか！

与平たちを振り払い、斬りかかる伊吹。

だが今度は、呪い師たちはそれをかわして伊吹の手を押さえて止める。

伊吹

……！

呪い師1

これほど言っても分からんか。

伊吹

お前、何者だ。

呪い師2

言っただしょ。旅の呪い師よ。

伊吹、麻呂の腕を振り払う。

呪い師1

聞くところによると、都には世にもめずらしい鬼退治をする鬼がいるというが…お前のことか。

伊吹

……。

呪い師2

百人鬼を斬れば、人となれる。これまで何人の鬼を斬ってきたの。

伊吹

九十と五人。

呪い師1

残り五人。さて、斬れるかな。

伊吹

斬るさ。オレは…鬼だからな。

呪い師2

じゃ、いずれまた会いましょう。

(なんかネタ)

伊吹

待て、コラ！…ちつくしゅう。今度会ったらどっちめてやる。

そこで、信綱がやってくる。

信綱 何をしている、伊吹。
伊吹 兄様…！

喜び、駆け寄ろうとする伊吹。
だが都人たちが割って入り、伊吹に刀を突きつける。

都人1 下がれ、鬼！

伊吹 ……！

与平たち 申し訳ございません！

与平たち、あわてて伊吹を下がらせ、頭を下げさせる。

与平1 都に潜む鬼は、伊吹様が見事退治されてしまいました。

与平2 どうぞお改めのほどを。

信綱 ご苦労だったな、伊吹。これでまた一つ、戦の種が消えた。

そう言って伊吹に近寄ろうとした信綱、都人に止められる。

都人1 あまり話されまな。鬼と親しくされては、信綱様まで鬼の仲間と思われかねません。

信綱 なんだと。

都人2 あんたも気安く声をかけるんじゃないわよ。

都人3 そうよ、そうよ！

伊吹 ……。

与平次 伊吹様。

都人1 どうぞお立場をお考えください。

信綱 伊吹…。

姫、出てくる。

姫 信綱様！

都人たち 姫！

都人たち、その場に控える。

姫 なにしてるの？アイス溶けちゃうよ。はやく行く。

姫、伊吹を見て、

姫 ……なにこのきつたない子。

都人1 姫、危のうございます。どうぞお下がりにください。

都人たち、姫を連れて行く。

信綱 伊吹。まもなく都が落成する。

……。

信綱 二十年前…人と鬼とが戦ったあの戦で、都は焼け、幾千、幾万もの命が奪われた。もう二度と、あのような哀しみをくり返さぬ為にも…

伊吹 鬼退治が必要だ。…分かってるよ。その為にオレがいるんだろ。

信綱 あと五人。お前が人と成りしその時には、必ず迎えに行く。

伊吹 待ってるよ。だからその日まで…オレは鬼だ。

音楽

大江山の山賊たちが飛び込んでくる。

S3 都・市中

都の市中で暴れ回る呉葉三姉妹、虎蔵、熊蔵。

呉葉たち よーし、お前たち。

呉葉1 金目のものは奪ったかい。

トラ・クマ はい、姐さん！

呉葉2 だったらさつさとずらかるよ。

呉葉3 余計な邪魔が入らないうちだね。

トラ・クマ はい、姐さん！

そこに、伊吹がやって来る。

伊吹 お前たちか。近ごろ都を脅かす、大江山の鬼というのは。

呉葉たち あん？

呉葉1 鬼とはご挨拶だね。

呉葉2 この美しい、

呉葉たち 呉葉様に向かつて。

トラ・クマ よっ、姐さん！

呉葉3 お前たち、

呉葉たち やっちまいな！

伊吹と呉葉たちの戦い。

伊吹、手下たちを倒して呉葉に迫る。

そこに、弥三郎が現われる。

弥三郎 お前…鬼か？

伊吹 なに？

伊吹と弥三郎の立ち回り。

伊吹の顔をのぞき込んだ弥三郎、おもむろに伊吹を放すと、

弥三郎 合格！

伊吹
は？

音楽、切れる。

弥三郎
いやあ、まさかこんなところで、愛しの君と出会えるとは。神様、今日という日の出会いをありがとう！

伊吹
なんだ、お前。

弥三郎
では、チエックします！

(チエック)

与平たち
あ！

弥三郎
合格！

伊吹
おい！

(チエック)

与平たち
あ！

弥三郎
合格！

伊吹
てめえ…！

(チエック)

与平たち
あ…。

弥三郎
……。

伊吹
…なんだよ、今のは！

伊吹、何度も殴ろうとするがかわされる。

弥三郎
総計、八十三点というところですか。ん、合格！今日はこの女をさらってくぞ！
トラ・クマ
ラジャー！

呉葉、虎蔵、熊蔵を張り倒し、その弥三郎の耳を引っ張って伊吹から引き離す。

呉葉1
なにやっつてんだい、あんた！

弥三郎
あいたたたた！

呉葉2
こいつはあたしらを殺しにきた都の手先だよ。

呉葉3
それをさらってくバカがどこにいるんだよ。

弥三郎、呉葉の顔を指さして、

弥三郎
うーん、不合格！

呉葉たち
この…バカちゃんが！（殴る）

弥三郎
あいたつ！

伊吹、呆れて、

与平1 お前が噂に聞く大江山の鬼か。

与平2 まさか、こんなふざけた男だったとはな。

弥三郎 ふざけた男？いい男って言うてくれねえか。

伊吹 名は。

弥三郎 弥三郎。

伊吹 弥三郎？

弥三郎 そうよ。オレ様が大江山を束ねる賊の頭、弥三郎様よ。

トラ・クマ よ！頭！

刀を構える伊吹。

弥三郎 おーっと、やめといた方がいいぞ。女の細腕じゃ、オレには勝てねえよ。

伊吹 ……試してみるか？

にらみ合う二人。

次の瞬間、弥三郎に斬りかかっていく伊吹。

その刃を次々と交わす弥三郎だったが、最後に白羽取りをしようとして失敗する。

トラ・クマ 切れた！

弥三郎 (頭が切れて) うわあ…。

伊吹 (呆れて) ったく、変わった野郎だよ。

弥三郎 変わったやつ、おかしなやつ、そして女は惚れるのです。…捕まえる！

弥三郎たちが伊吹を捕まえようとした時、呪い師たちが入ってくる。

呪い師たち 危ない！

呪い師たち、みんなを止める。

弥三郎 何だ、お前ら。

呪い師1 危ないところだったぞ。

弥三郎 あん？

呪い師2 あなたがこの美しい…

呉葉たち 美しい!?

みんな 違う！

呪い師2 伊吹さんを口説きたくなる気持ちはよく分かるわよ。

呪い師1 が、霊験あらたかレイちゃん占いによると、二人の相性は…

呪い師たち ん…最悪。

弥三郎 なんだとコラ！

ざまあみると笑つ呉葉。

伊吹、なんだかムツとする。

呪い師2 やめといた方がいいわよ。二人が本気で恋に落ちたら最後、

呪い師1 苦難、災難ひた続き。千年の地獄に落ちること間違いなし。

弥三郎 んなバカな話があるか！

呪い師たち ところが！

呪い師2 (呉葉を見て) こちらのお三人様とは、なんとまあ相性抜群。

呉葉たち え！

弥三郎 やめる。

呪い師1 一生幸せに暮らしていける、まさしく運命の赤い糸。

呉葉たち え！

弥三郎 マジやめる。

呪い師2 うらやましいわ！こんな所にも、美しい愛の花が芽生えていたのね。

呉葉たち そうじゃないかと思ってた。…ちよっと、あたしよ！あたし！

呉葉たち、喧嘩する。

弥三郎 悪いが、絶対ないから。

呉葉たち なんで、なんで！(麻呂に) ねえ、ちよっと！

呪い師たち そういう時にはこれだ！

懐からひょうたんを取り出す麻呂。

呪い師たち 霊験あらたか、レイちゃん印の縁結びの聖水。

呪い師1 ここれを一度その身に振りかければ、あっという間にモテまわること間違いなし。

呪い師2 普段なら○○とも交換しないとこだけど、

呪い師1 美しいそなたが苦しむ姿は見るに忍びない。

呪い師2 おまけにこのレイちゃん印の恋愛成就マニュアルもつけて、

呪い師たち 出血大サーブスだ、持ってけ泥棒！

呉葉たち いいの！？ほんとに？

呪い師2 私たちの仲じゃない。

呪い師1 さあこの聖水で、今度こそ幸せな人生をつかもうではないか！

伊吹・弥三郎 いい加減にせんか！

聖水を蹴り飛ばす二人。

みんな ああーっ！

呉葉たち あたしの幸せが！

二人 よっじゃー！

二人、息の合ったコンビネーションに、思わず抱き合って喜んでいる。
麻呂、それに気づいて、

呪い師 あ。

みんな あ。

我に返る一人。

一瞬、顔を見合わせて、

弥三郎 …恋に落ちた。

伊吹・みんな えーっ！

伊吹、あわてて弥三郎を振り払う。

伊吹 ちょ、ちょっと待て。お前、いきなりなに言ってるんだ。

弥三郎 いやあ、実は初めて会った時から、これは運命なんじゃないかと思ってたんですわ。

呉葉たち え、あたしは！？失恋！？あたしが失恋！？

伊吹 ちょっと待て！オシたち…まだ会ったばかりだし。

弥三郎 恋に時間は関係ありません。

伊吹 お互いよく知らないし。

弥三郎 これから深く知り合えばいいんです。

伊吹 いいから、やめろ！

伊吹、弥三郎を振り払う。

伊吹 俺は…ダメだ。

弥三郎 ……。

伊吹 俺はお前らを退治して、人になるんだ。お前らといっしょにするな！

呉葉たち なんだって…！

弥三郎 (呉葉を止めて) なんだよ、つれねえな。そんなカッコしていると、そのきれいな目が台

無しだぞ。

伊吹 ……。

弥三郎 また会おうぜ。おい、行くぞ！

弥三郎たち、去っていく。

伊吹 ……つたく、変な野郎だよ。
与平 伊吹様…。

S 4 信綱の屋敷

信綱、出てくる。

信綱 伊吹。

伊吹 兄様…。

信綱 めずらしいな。お前が賊を討ち漏らすとは。

伊吹 討ち漏らしたんじゃないよ。見逃してやったただけだ。次に会ったら絶対…。

信綱
伊吹
……。
なあ、兄様。

信綱に近づき、手を触れようとする伊吹。

信綱
やめる！

が、信綱に乱暴に振り払われる。

伊吹
兄様…。

信綱
…お前はまた、鬼だ。

伊吹
……！

信綱
お前が人と認められるまで、あと五人。それまでは軽はずみなことはするな。

伊吹
…分かってるよ。

信綱
さもなければ、これまでのお前の努力がふいになる。オレはこの都を…。

伊吹
分かってるって！

信綱
伊吹。

伊吹
…オレさ、うれしかったんだよ。あの戦が終わって、独りぼっちで泣いてたオレに、兄様は優しく声をかけてくれた。だからオレは、兄様の為ならどんなことでもしようと思っただ。

信綱
伊吹。

姫、都人たち、出てくる。

姫
信綱様。

信綱
……。

都人2
帝からの勅命よ。鬼を三人、斬ってらっしゃい。

伊吹
……。

都人3
何をしているの。さっさと行きなさい！鬼！

伊吹、黙って行くとする。

都人1
いいか、お前はこの都のため、鬼を斬るためだけに生かされている。あんまり夢を見るんじゃない。

伊吹
……！

信綱
おい、よせ。

都人1
信綱様、いい加減になさいませ。あのような鬼に情をかけ、都でいったいどのように噂されているか、ご存知ないのですか。

都人2
あなたも気安く屋敷に上がらないでちょうだい。

都人3
あなたはただ鬼を斬っていればそれでいいのよ。

都人2・3
さあ、行きなさい！鬼！

姫
なにこれ、おもしろーい。

伊吹、カチンときて、

伊吹 …なんだよ、その言い草は。
与平たち 伊吹様！

伊吹 お前らがのんびり寝てられんのはだれのおかげだよ。オレが鬼を斬ってるからだろうが。それを「ただ斬ればいい」って、そんな言い方があるか！

都人たち 貴様…！

与平たち やめてください！

伊吹 都のことなんかしるかよ。オレはただ、人になれるって言うから斬ってるだけだ。

突っかかるうとする伊吹を、必死に押さえる与平たち。

与平たち いけません、伊吹様。いけません！

伊吹 うるせえ、離せ！

与平1 人になるまでの辛抱です。

与平2 あと五人、あと五人ですから！それまでは、どうか…！

伊吹 …くそっ！

与平たち 申し訳ありません！

与平1 伊吹様には言っただけですから、

与平2 どうか、どうかご勘弁を…。

伊吹、与平たちに無理やり頭を下げさせられる。

姫 やっぱりおもしろい。

伊吹 ……。

姫 これが鬼かあ。

伊吹、姫をにらむ。

姫 やだ、こわい…。

都人1 姫。

都人たち、姫と信綱を促し、去ろうとする。

信綱 伊吹。

伊吹 …斬ってきます。オレにできることは、それしかありませんから。オレは兄様のために戦ってるんだ。

伊吹、与平たち、去る。

それを追いかけてようとして、やめる信綱。

そこに、呪い師たちが出てくる。

呪い師1 哀しいな。どれほど愛しく思おうとも、人と成るまでは触れ合うことも叶わぬか。

都人1 なんだ、貴様は！

信綱 よせ！

麻呂に向かい、ひざを突いてかしくまる信綱。
それを見て、都人たちも慌てて頭を下げる。

呪い師2 信綱、弥三郎が戻りました。

信綱 ……！

呪い師2 大江山に住まう山賊共を束ね、都を荒らしています。

信綱 では、やはり大江山の鬼というのは…！

呪い師1 そうだ。弥三郎だ。

信綱 ……。

呪い師2 信綱、弥三郎を斬りなさい。あれこそ、都にはびこる最大の鬼。

呪い師1 生かしておけば、必ずや新たな戦の火種を産む。

信綱 ……。

呪い師1 どうした。

信綱 いえ。

呪い師1 かつての友の首はとれんか。

信綱 ……。

呪い師2 全てはこの国の御為。だれ一人傷つくことのない、真に豊かな国を作る為。

呪い師1 (こっそり) 今なら特別サービスとして、レイちゃん印の特製破魔矢「キューピッド8

号」今なら何とびっくり価格の…。

信綱 承知いたしました。

呪い師1 ん？

信綱 弥三郎の討伐、承知したと帝にお伝えくださいませ。

呪い師たち、笑いながら去っていく。

一人残る信綱。

信綱 弥三郎…。

S5 都・街中

弥三郎 ツーナポン！

とつさに刀に手をやる信綱。

そこにやって来る弥三郎。

弥三郎 なんだ、なんだ。あいかわらず、愛に悩んでるのか？愛のことだったらオレに聞け。な
んでも教えてやる。

信綱 弥三郎…お前、なにしに来た。

弥三郎 なんだよ、ツナポン。友だちに会いに来ちゃいけないのか、ツナポン。

信綱 ツナポンっていうな…昔の話だ。

弥三郎 つれねえな。

信綱 弥三郎…。

話しかけようとする信綱を、弥三郎はすかして、

弥三郎 いや、実はオレ、ついさっき恋に落ちてな。
恋？

弥三郎 だけど、今一步踏み込めずに困ってるんだ。これ、どうしたらいいと思っ
信綱 知らん。

弥三郎 ホントに困ってるんだって。今回はオレ、けっこうマジだと思うんだよ。純愛って言っ
のかな。

信綱 それがおれと何の関係があるんだ。

弥三郎 だって一応お前の許可をもらっとかないとまずいだよ。

信綱 なんて。

弥三郎 その女、伊吹っていうんだ。

信綱 ……！

弥三郎 伊吹って言うんだわ、困ったことに。

信綱、弥三郎を斬ろうとする。

弥三郎、それを止めて、

弥三郎 そうマジになるなよ。

信綱 ……。

弥三郎 それとも、オレを斬れと言われたか。…変わらん、都も。

信綱、刀を下ろす。

弥三郎 お前、あいつをどうする気だ。

信綱 なに。

弥三郎 利用するだけ利用して、そしてその後どうする気だって聞いてんだ。

信綱 …お前には関係ない。

弥三郎 ツナポン！

信綱 ツナポンって言うな！

信綱、弥三郎に刀を突きつけ、

信綱 …弥三郎、お前、もう一度都で働かないか。
弥三郎 なに。

信綱 この国のため、今一度お前の力を使ってみないか。

弥三郎 …すまんが、そりゃ無理だ。

信綱 弥三郎。

弥三郎 オレはもう、都には戻らん。

信綱 ……。

弥三郎 なあ、ツナポン。都人だけが人間か？人には人の、鬼には鬼の道理がある。鬼を退治す
信綱 だけが道じゃねえって、なぜ分かん。

弥三郎 鬼は鬼だ。何があってもそれは変わらん。人は鬼を決して受け入れない。
綱。

信綱 お前が都に戻らんと言っなら、斬るまでだ。

信綱、去ろうとする。

弥三郎 やってみる。

信綱 ……。

弥三郎 だがその時は、ひとかたならん犠牲を覚悟しろ。オレら大江山の鬼、いつでもめてめえらと差し違える覚悟はできてんだ。

信綱、去る。

S 6 野原

伊吹と、別の所から虎蔵と熊蔵が何かを探しながらやってくる。

伊吹 えっと…聖水、聖水…っと。

トラ 聖水…聖水…っと。

弥三郎 (二人を見て)…なんだろう、これ。

伊吹 ちつくしょう、ねえなあ。あれさえあれば、

トラ あれさえあれば、

クマ あれさえあれば、

三人 モテモテになるんだけどなあ。

三人、背中合わせにぶつかる。

三人 あ、すいません。聖水、聖水…っと…。

そのまま何事もなかったかのように探し続ける三人。

弥三郎 …お前ら、なにやってんだ。

三人、弥三郎に気づく。

伊吹 うわっ！弥三郎！

トラ・クマ 頭！

さらにお互いに気づき、驚く三人。

三人 うわわっ！

伊吹 お前ら何してんだ！

トラ そっちこそ！

伊吹 あ、さてはお前らも聖水を…！

トラ え、まさかそっちも！

弥三郎 聖水？

伊吹 あ、いや、なんでもない！
トラ・クマ なんでもありません！
弥三郎 ……。

伊吹 なんでもない、ホントになんでもないぞ！オレ別に、なんにも探してないからな。
そこに、与平次が聖水を持って駆け込んでくる。

与平たち 伊吹様！例の聖水、見つけました！
三人 わっ、わっ！
与平たち いやあ、苦労しましたあ。あっちこっち駆けずり回って、もう入ト入トです。でもこれ

伊吹 で、伊吹様はモテモテに…。
あーっ、足が滑った！

伊吹、聖水を取り上げると、また蹴り飛ばす。

三人 あーっ！
伊吹 もっかい探してこい！
与平次 えっ！
伊吹 いいから行け！
トラ オしたちもだ！
クマ はい！

与平次、虎蔵、熊蔵、駆け出していく。
弥三郎、笑って、

弥三郎 なんか、探しもんか？
伊吹 いや、別に？
弥三郎 ふーん。

弥三郎、伊吹を見つめている。
伊吹、その視線に気づいて、

伊吹 ……なんだよ。じろじろ見るなよ。
弥三郎 お前、もうちょっと女らしくした方がいいぞ。
伊吹 なんだよ、突然。
弥三郎 そうすりゃ、絶対モテる。
伊吹 バカ、俺は別にモテたいなんて思ってないぞ。
弥三郎 そうか？
伊吹 当たり前だろ。オレは鬼だ。

そこに、与平たちと虎蔵、熊蔵が聖水をとり合いながら戻ってくる。

与平たち 伊吹様！やりました！みごと聖水を勝ち取りました！
伊吹 帰れ！

与平たち
なんでですかあーっ！

与平たち、追い出される。

伊吹
(弥三郎を見て) なんでも、ない！

弥三郎
心配すんな。

伊吹
え？

弥三郎
俺も鬼だ。

音楽

伊吹
…ホントにふざけた男だよ。
弥三郎
いい男、だ。

二人、腰を下ろす。

二人の前には、都が広がっている。

一時、それをながめている伊吹。

弥三郎
…伊吹。

伊吹
ん？

弥三郎
鬼は嫌か。

伊吹
なんだよ、突然。

弥三郎
いいから。

伊吹
…そりゃあ、嫌だよ。ずっとそう言われて生きてきたんだ。ずっと…生まれたときから

…。

弥三郎
…。

伊吹
なんだよ。お前は笑うかもしれないけどさ、こんなオレだって、ちよつとくらいは幸せ
になりたいって思うんだぜ。大したことじゃねえんだ。ただ朝起きたら家族がいて、外
に出たら友だちがいて、いっしょに笑って、泣いて、喜んで…。そんなこといいんだ
よ。でもオレが鬼でいる限り、だれにも愛してもらえない。オレが鬼でいる限り、抱き
しめてもらえない。この手の一つも取ってもらえない。兄様だって…。
弥三郎
…そうか。

伊吹、ふと弥三郎を見て、

伊吹
オレ…昔、聞いたことがあるよ。柏原弥三郎って、侍大将のこと。ほら、兄様が幼なじ
みで、ずっといっしょだっただろ。

…。

伊吹
強くて、勇敢で、女癖が悪いのが玉に瑕だったけど…都中の、みんなの憧れだったって。

…。

伊吹
お前、なんで都を出たんだ。なんで鬼になったんだ。

弥三郎、去ろうとする。

伊吹 教えてくれ、弥三郎。お前はなんで鬼になった。鬼になったって、いいことなんか一つもねえじゃねえか。オシには、どうしても分からないんだよ。

弥三郎、振り返って、

弥三郎 お前、山に来い。

伊吹 え？

弥三郎 オシといっしょに、大江山に来い。心配するな。山の連中に手出しはさせねえ。

伊吹 お前、なに言ってるんだよ。

弥三郎 お前だってわかってるだろう。オシたちは鬼だ。鬼と呼ばれる人間だ。この世に都がある限り、それは変わらねえ。だから…。
やめる！

伊吹 伊吹、弥三郎の手を振り払う。

伊吹 鬼は…ダメだ。

弥三郎、去ろうとする。

伊吹 お前が山にいる限り、お前は鬼だぞ。

弥三郎 ああ。

伊吹 オシはお前を斬りにいくぞ。

弥三郎 ああ。

伊吹 弥三郎！

弥三郎、振り返って、

弥三郎 …大江山で、待ってる。

弥三郎、去る。

呪い師たち、出てくる。

呪い師1 だから言ったるっ？相性は悪いってさ。

伊吹 お前…！

呪い師2 信綱。

信綱、保昌、与平次、出てくる。

信綱 伊吹、たった今、勅命が下った。

伊吹 ……。

信綱 最後の鬼退治だ。都の西、大江山に夜な夜な都を脅かす、鬼が住むという。

伊吹 大江山…！

信綱 弥三郎を斬れ！

伊吹 兄様！

信綱 ……伊吹、見る、この都を。ようやく訪れた平穩の日々を謳歌している。オレはもうこれを失いたくない。

伊吹 ……。

信綱 いいか、伊吹。この都を作ったのはお前だ。弥三郎を斬れば、お前も人になれる。だれに恥じることなく、堂々と生きていけるんだ。

伊吹 堂々と…。

信綱 そうだ。

伊吹 人として…。

信綱 そうだ。

伊吹、信綱を見つめて、

伊吹 信綱様…。もし、この鬼退治が終り、それでも人と成れなかったとしたら…。

信綱 なに。

伊吹 それでもあなたはわたしを迎え入れてくれますか。たとえ共に鬼と呼ばれようとも、あなたの作った、この美しい都から石持て追われようとも…。

信綱 ……。

伊吹 兄様、一つだけ教えてくれませんか。鬼のいなくなったこの都は、本当に幸せな国なのですか。鬼を退治し、畏れをなくしたこの都は、本当に幸せな国なのですか。これから千年、鬼をなくしたこの国で、人は本当に幸せに暮らしているのでしょうか、争いもなく、憂いもなく、人は人を敬い、慈しみ、愛し合っているのでしょうか。

信綱 必ず…。私は、そう信じている。

伊吹 だったら行きます。この国の為、数多の人々の為、あなたの為…弥三郎鬼を、私は斬ります。

音楽

呪い師

我らが欲するのは弥三郎の首一つ。忘れるな。都の落成は次の満月の日。それまでに弥三郎を討ち取れないときは、都の軍勢一万が大江山を焼き尽くす。戦を望まぬならば、すぐに弥三郎の首をとれ。

大江山に乗り込んでいく伊吹。

S7 大江山

大江山の鬼と戦う伊吹。

その先に、弥三郎の姿が見えてくる。

剣を交える二人。

伊吹 お前たちは、なんで鬼の道を選ぶ。人になって、都で暮らせば済むことじゃないのか。

立ち回り

呉葉たち ぶざけるんじゃないよ！

呉葉1 なにが人だい、なにが鬼だい。あたしから見りゃ、都が鬼さ。

伊吹 なに。

呉葉2 あんたにだって親がいたろう。兄弟もいたろう。そいつらを殺したのはいつたいたいだれだ
い。都だろうが。

伊吹 ……。

呉葉3 あんた自分を鬼だって言うけどね、そう言ってるあんた自身が、自分を鬼にしてるんだ
って、なんでそれが分からないんだい。

立ち回り

呉葉1 それでも、都に味方するっていうんなら…。

呉葉、弥三郎を見て、

呉葉2 斬りな。

伊吹 なに。

呉葉2 人を斬って、人になれるって言うなら、そんな道理が立つなら、腹すえて、あたしら全
員たたつ斬りな。

伊吹 ……。

呉葉3 どうしたんだい。それがあんたの生き方なんだろうが。さあ！

伊吹、刀を振り上げて、斬ることができない。

伊吹 ……。

弥三郎 伊吹。

伊吹を蹴りつけ、刀を突きつける呉葉。

呉葉1 あたしは都を絶対許さない。

呉葉2 ……そして、都に味方するヤツもね。

呉葉、伊吹を斬ろうとする。

弥三郎 よせ！

呉葉たち ……！！

弥三郎 もういい。やめろ。

呉葉1 なに言ってるんだい。こいつはね、あんたを殺しにきたんだよ。結局都に心売ったんだ。
それを…！

弥三郎 分かってる。

呉葉1 ……分かってる？

弥三郎 んなこたあ、重々分かっている。だからもう退け。

呉葉1 ……。

弥三郎 退け。

呉葉2 弥三郎、あんたまさか、都に未練があるんじゃないだろうね。

弥三郎
バカを言っな。

呉葉2
あっちゃ困るよ。あんたはあたしらの頭領なんだからね。

呉葉3
あたしらは、あんたに賭けたんだ。あんたなら、きつと都を倒してくれる。あたしらの敵を討ってくれるって。

呉葉1
今さらやめるなんて言わせないよ。あんたは都と戦つんだ。あたしといっしょに。なにがあっても。

弥三郎
…呉葉。

呉葉、伊吹をにらみつけて、

…絶対にね。

呉葉たち、去る。

弥三郎
…気にするな。ちつとばかり、頭に血が上ってるだけだ。

伊吹、うなだれたままで、

伊吹
…弥三郎、一つだけ教えてくれないか。
弥三郎
なんだ。

伊吹
オレが今まで斬ってきたのは、鬼か、人か。

弥三郎
…。

伊吹
…人だ。

伊吹
…。

弥三郎
だがそれは…。
伊吹
分かった。…ありがとう。

弥三郎、去りかけて、

弥三郎
伊吹。お前、しばらくここで暮らせ。

伊吹
…！

弥三郎
勘違いするんじゃないぞ。お前は捕虜だ。捕虜なら、頭のオレの許可なく、勝手に出て行くんじゃないぞって言ってんだ。

伊吹
なに言ってんだよ、お前。オレはお前を斬りにきたんだぞ。オレは…
弥三郎
関係ねえよ。恋に落ちるってのは、そういうことだ。

弥三郎、去る。

虎蔵、熊蔵、それについて行くつとして、ふと振り返る。

伊吹
鬼ってなんなんだろうな。オレはいいたい…。

虎蔵、熊蔵、伊吹のそばに行つて、

トラ 伊吹さんは伊吹さんですよ。山にしようが、都にしようが、そんなこと関係ありません。
伊吹 ……。
クマ いいじゃないですか。人間、生きるのに理由なんかありませんよ。こんなご時世ですから、だれだってだれかの恨みを買ってます。

伊吹 ……。
トラ あ、オレ、トラって言います。虎蔵のトラです。で、こいつが、
クマ 熊蔵のクマです。
トラ ま、伊吹さんから見たら、頭のとにくっついてるただの雑魚だと思ってたかもしれませんが、
クマ やっぱりただの雑魚です。

二人、笑う。

トラ それじゃ、山、案内しますから。行きましょう。

伊吹 お前ら…いいのか。さっきまで斬り合ってた相手だぞ。

トラ・クマ コラーツ！コラコラコラコラーッ！

トラ 大江山をなめちやいけません。山にはついこの前まで殺し合ってた連中が、ゴロゴロしてますよ。

クマ 自慢じゃありませんが、オレとこいつなんか、何回やり合ったと思います？

トラ 仲が悪かったんですわ、オレの村と、こいつの村が。

クマ 村士の争いで十回、個人的に三回。

伊吹 個人的？

トラ 実はですね、オレのトラ村と、

クマ オレのクマ村の間には、

トラ ネコ村って言うのがあります、そのネコ娘をめぐって、オレとこいつが決闘したんですわ。

二人、戦う真似をする。

クマ 何日も続くような、激しい戦いでした。こりゃあもう、二人とも死んじまうに違いなんて思ってたその時、ネコ娘が叫んだんです。

トラ もうやめて！

クマ 振り返ると、ネコ娘がすごい目でこっちを見てました。

トラ もう戦うのはやめて！悪いけど、あんたらなんか眼中にないから。バツカじゃないの。

二人、笑う。

トラ いやあ、フラれたフラれた。まったく脈がありませんでした。

クマ 完全なオレたちの、勘違いでした。

伊吹 で、三回って…。

トラ はい、まったく同じパターンで、三回フラれました。つまりオレとこいつは、いいライバルってわけです。

二人、また笑う。

トラ
伊吹
とまあ、こんなオレらでも生きていける、それが大江山なんです。
生きて…いける…？

トラ
オレには姉ちゃんがいましてね、仲良かったんですけど、ある日フラッと村を出ていっちゃったんですよ。それからしばらくして、都の侍たちがやってきました。あつという間でした。あつという間にオレのトラ村も、

クマ
オレのクマ村も、
トラ
焼け野原になりました。姉ちゃんが村を売ったんです。姉ちゃんのせいで村は都に焼かれたんです。
……。

トラ
オレも何度死にかけたか分かりません。それが全部姉ちゃんのせいだって思ったたら、憎くて、悔しくて…。でもね、ここに来て、ちよつと分かった気がするんですよ。姉ちゃんは姉ちゃん、必死に生きよつとしただけなんだって。
……。

伊吹
クマ
オレ、思うんです。きっと人ってのは、どうしたってだれもがだれかの鬼になつちまうんです。そついう風にできてるんです。
……。

伊吹
トラ
だから、心配しないでここにいてください。ここにいる限り、伊吹さんも人間です。
…ありがとな。

トラ
じゃ、オレたち行きます。

クマ
何か困ったことがあったら。なんでも俺たちに言ってくださいね。俺たち、意外に頼りになります。
……。

伊吹
二人
じゃ。

虎蔵、熊蔵、去る。

いつの間にか、出てきてそれを見ている呪い師たち。

呪い師1
どうした。なぜ斬らん。

伊吹
……。

呪い師2
満月の日まであと少し。あなたが斬らなければ、戦となります。それとも、都を…信綱を敵に回す気ですか。

伊吹
…都と戦いたいわけじゃない。

呪い師1
だったら、

伊吹
ただもう分からないんだ。なんのために鬼を斬るのか。

呪い師1
弥三郎の首なくば、都の基盤は崩れ落ちる。人は鬼を、決して受け入れない。

伊吹
……。

伊吹、去りかける。

呪い師2
忘れないことね。この山の者たちは、いずれあなたを重荷に思うときが来る。

伊吹
……。

呪い師2
都は決して、あなたを許さない。

伊吹
(遮って) それでも、あいつは言ってくれたんだ。オレは…いい女だって。

音楽

S 8 大江山

(遊び)

呉葉1 まあ、いいさ…。

トラ 姐さん？

呉葉2 …ここは鬼の都だ。仲よくやりな。

トラ 姐さん。

呉葉3 でも、あたしは遠慮しとくよ。

刀に手をかけ、去っていく呉葉たち。

トラ 姐さん…姐さん！

虎蔵、追って行く。

S 9 大江山

伊吹と弥三郎、駆け込んでくる。

弥三郎 いやあ、危ないところだった。

伊吹 ……。

弥三郎 なんだよ。

伊吹 お前、いいのかよ。

弥三郎 あん？

伊吹 話があるって言ってたろ。

弥三郎 いいんだよ。あいつとはもう、長え付き合いだ。言いたいことは分かってる。

伊吹 ……。

弥三郎 あいつもよ、ここを守るうって必死なんだ。都に村を焼かれて、家族をなくして、ここしか居場所がねえからよ。

伊吹 へえ。

弥三郎 ……なんだよ。

伊吹 やっぱお前、いい奴だな。

弥三郎 やめる。恋する男と女に、その言葉は禁句だ。

伊吹 なに言ってたんだ。

弥三郎 それにオシは、鬼だ。

伊吹 ……。

弥三郎 もう寝る。明日は、満月だ。

弥三郎、去ろうとする。

伊吹
弥三郎…。

弥三郎

伊吹
お前、なんで都を出たんだ。

弥三郎
あん？

伊吹
いいだろ、もう。教えてくれたって。いったい…なにがあったんだ。

弥三郎

伊吹
教えるよ。

弥三郎、遠くを見て、

弥三郎
あの日…。オレが都を出たあの日…。オレはある村へ、鬼退治に向かっていた。

伊吹
鬼退治…？

弥三郎
その村で、オレは数え斬れんほどの鬼を斬った。村は焼け、鬼は死に、ようやく終わったと思ったその時、俺は一人の赤ん坊を見つけた。その時な、その子が笑ってたんだ。

伊吹

弥三郎
笑ってたんだよ。オレの腕の中で。なんでだ。なんであの子は鬼と呼ばれたんだ。なん

であの子は生きてちやいけなかった。なんでオレは、あの子を殺したんだ。

伊吹

弥三郎
なにが鬼で、なにが人か、それは俺には分からねえ。でも、これだけは言える。鬼を作

ったのは、オレたちだ。そしてたぶん、お前を鬼にしたのもな。

伊吹

弥三郎
この世で一番の罪はな、人が人を斬ることじゃねえ。人が人を…鬼にすることだ。

伊吹

弥三郎…。

黙って立ち尽くしている弥三郎。

伊吹

バカやろう…。

弥三郎

伊吹
…そのおかげでオレたち、出会えたんじゃないか。

弥三郎

…。

きつとさ、人間この世に生きて、無駄なことなんて何一つないんだ。どんなつらいことも哀しいことも、オレたちの犯してきた罪でさえ…。それは、決して償いきれるようなものじゃないかもしれないけど、でも、オレとお前が会えた、これは無意味なことなんかじゃない。だから…。

弥三郎

…。

伊吹

もし今、オレとお前がほんの一時でも手を取りあえたら、明日、オレたちがまだ生きていられたら、明後日、ひよっとしたら、だれかがオレたちに向かって、笑ってるかもしれねえよ。

弥三郎

伊吹…。

伊吹

笑えよ、弥三郎。その子のように、無邪気に笑え。

弥三郎

伊吹…。

伊吹、笑つ。

伊吹 …弥三郎。

弥三郎 なんだ。

伊吹 オレ、都に戻るよ。

弥三郎 ……？

伊吹 兄様と話してみる。山も、都も、もう争わなくてすむように。互いが互いを…鬼にしな
くていいように。

弥三郎 お前、そんなことしたら…。

伊吹 大丈夫。兄様は、きっと分かってくれる。

弥三郎 ……。

伊吹 オレを信じろって。

弥三郎 …分かった。

伊吹 だからそれまで、おとなしく待ってろよ。

伊吹、行こうとする。

弥三郎 伊吹。…気をつけるよ。

伊吹 ああ。

トラ・クマ 頭！

そこに、虎蔵と熊蔵が駆け込んでくる。

荒い息をついている二人。

弥三郎 なんだ、どうした。

トラ 姐さんが…姐さんが、たった一人で都へ斬り込みました！

二人 なに！

全員、駆け出していく。

SIO 都

一人、都の武士たちと戦っている呉葉。

都人1 のこのこと都に乗り込んできたか、鬼！

立ち回り。

呉葉1 そうさ、これは戦だよ。

呉葉2 あたしらと、あんたら鬼のね。

立ち回り。

都人2 私たちが鬼ですって？

呉葉3 勝った方が人になり、敗けた方が鬼になる。そういうもんだろ、世の中ってのは。

都人3 だつたらやっぱりあなたたちが、
都人たち 鬼ね！

立ち回り。
伊吹たち、駆け込んでくる。

伊吹 待て！

都人たち あんたたち…！

呉葉たち 邪魔するんじゃないよ！

トラ・クマ 落ち着いてください、姐さん！

呉葉1 言つただる。あたしは都を許さないってね。

都人たち、伊吹に刀を突きつける。

都人2 あんた、裏切つたの？

都人3 やっぱり、鬼は鬼ね。

伊吹 待ってくれ。話を聞いてくれないか。

都人1 さつさとそこをどけ！どかねば…貴様も斬る！

信綱、姫、与平たち出てくる。

信綱 待て！

伊吹 兄様…！

信綱 何をしている、伊吹。なぜ鬼を斬らん。

……。

伊吹 与平は鬼だ。斬らねば都の罪なき者たちが傷つくことになる。すぐに鬼を斬れ！

再び斬り合おうとするみんなを止めて、

伊吹 待ってくれ、兄様。呉葉も。オレはもう、だれも斬りません。

信綱 なに。

伊吹 斬りたくないんだ。だれかがだれかを傷つければ、そこに鬼が生まれる。それじゃいつまでもたつても変わらない。だからオレはもう、だれも斬りたくないんだ。

与平たち 伊吹様…。

信綱 バカなことを言つな！

伊吹 兄様…。

信綱 伊吹、自分が何を言っているのか、分かっているのか。お前が人となるまであと一人、あと一人なんだ。こいつを斬ればすべて終わる。この国は幸せな国になる。

伊吹 それでは、この人たちはどうなるんです。
信綱 なに。

伊吹 この国が幸せな国になり、それで山のみんなはどうなるんです。

信綱 そやつらは鬼だ。鬼のことなど関係ない。

伊吹 いえ、人です。

信綱 伊吹。

伊吹
人です。

信綱
奴らは鬼だ。

伊吹
人だったんです。オレは、ずっと人を斬ってきたんです。

信綱
……。

伊吹
本当はずっと苦しかった。鬼と呼ばれる人たちを斬りながら、本当はずっと痛くて、苦しくて…そして鬼を斬るたび、どんどん本当の鬼になっていく気がして…。でも、兄様もそうじゃないんですか。

信綱
なに。

伊吹
だって今の兄様は笑ってない。幸せな国をつくるためって兄様は言うけど、兄様はちっとも幸せそうじゃない。寂しかったんだよ、オレ、兄様がどんどん変わっていくみたいでさ。そこまでして、なんで戦わなきゃいけないんだ。なんで鬼退治が必要なんだよ。

信綱に詰め寄る伊吹。

信綱
お前のためだ。

伊吹
……。

信綱
だれもが幸せに生きる世などありはしない。何も変わらん。鬼がこの世から消えない限り。どちらかがこの世から消えない限り。

伊吹
……。

信綱
もう、終わらせなくてはならんだ。

与平一
伊吹様。

信綱が伊吹に近寄ろうとした時、与平一が刀を抜く。

伊吹
……！

与平一
ご覚悟を……！

与平一、伊吹に斬りかかる。

伊吹
お前……！

与平一
今さら勝手なこと言わないでよ。だったら私はどうなるのよ。これが最後の鬼退治だっ
て…やっとなれると思ってたのに……！

信綱
おい、待て……！

再び斬りかかる与平次。

その時、虎蔵が伊吹をかばい、斬られてしまう。

伊吹
トラ！

与平次
……！

虎蔵、倒れていく。

みんな
トラ！

虎蔵に駆け寄る伊吹たち。

弥三郎 貴様！

与平一 私のせいじゃないわよ。そっちが勝手に…。

伊吹 …○○！

与平一 あんたが悪いんでしょ！あんたがおとなしく都に従ってれば…私だってこんな…！あんたが悪いのよ。あんたが全部悪いのよ！

伊吹 ……。

与平一

どうして？どうしてみんな邪魔するの？私はね、別にみんなが幸せになんかならなくていいのよ。私が幸せになりたかったのよ。私が、今、幸せになりたかったのよ！それじゃいけないの。それが悪いことなの。やっと人になれる思ったのに…どうしてみんな、邪魔するのよ！

伊吹 貴様！

トラ やめてください！

伊吹 トラ…。

トラ やめてください。伊吹さんも…みんなも…。

虎蔵、与平次を見上げて、

トラ 分かるよ、姉ちゃん…。

みんな ……！

トラ 他のだれにも分かってもらえなくても、オレだけは分かってる。姉ちゃんは、オレの大事な、家族なんだから。

与平一 トラ…。

伊吹 与平、お前…。

トラ いつも言ってたもんな。いつかこんな村抜け出して、あの都で暮らすんだって。姉ちゃん、夢を叶えたんだよな。

与平次 ……。

トラ オレはよ、いっしょにはいられなかったけど、でもそれが姉ちゃんの幸せなら、オレはそれでいい。だから…！

トラ、弥三郎たちに向かって頭を下げる。

トラ お願いします。姉ちゃんには、手を出さないでください。お願いします。お願いします！

伊吹 トラ…。

トラ お願いします！

虎蔵、信綱を見上げて、

トラ まあ、都の…。あんたら言ったな。頭の首をとれば、この戦は終わるって。だったら

弥三郎 …オレが弥三郎だ。

トラ ……！

オレが大江山の鬼の頭、弥三郎だ。この首一つで戦が終わるなら、オレの首をとってくれ。

弥三郎 トラ、待て！

トラ 黙っててください！…文句はないな。

信綱 …本気か。

トラ ああ。

信綱 お前はただ死ぬだけではない。この都を脅かした最後の鬼として、お前の魂は未来永劫、人々の恐れと憎しみを背負うことになる。覚悟の上か。

トラ そうすれば、伊吹さんは人になれるな。姉ちゃんは…都で幸せに暮らせるな。

信綱 約束しよう。

トラ なら…斬れ。

弥三郎 トラ！

虎蔵、笑って、

トラ 頭。すみません。勝手なことをして。

弥三郎 ……。

トラ オレ、幸せでした。オレの人生、ろくなことがありませんでしたが、頭と出会って、山で過ごした一時、オレ、ホントに楽しかったんです。だから…すみません。
弥三郎 ……。

虎蔵、伊吹の刀を取ると、抜いて伊吹に差し出す。

トラ 伊吹さん。

伊吹 ……。

トラ 斬ってください。

伊吹 トラ。

トラ オレは鬼です。オレを斬って、人になってください。

伊吹 トラ、オレは…！

トラ 諦めちゃダメですよ。人間、どこにいたって、どんなときだって幸せになれるんです。
伊吹 ……。

トラ でも人間って欲張りなもんですね。一つ幸せになると、もっと幸せになりたくなる。もっと幸せになると、もっともっと幸せになりたくなる。もっとも…生きていたくなる。も

苦しそうにあえぐ虎蔵。

与平 トラ…ごめんな、オレは…ごめんな…！

トラ さあ、伊吹さん。

伊吹、刀を構える。

トラ オレ、あんたと会えて、幸せでした。

伊吹 オレも…幸せだったよ。

伊吹、トラを斬る。

与平！

トラ！

泣き崩れる与平！。

伊吹 ……。これが…平和ですか。

信綱 ……。

伊吹 これが幸せですか。ここまでしてもなお、手にしなくてはならない平和とは、いったいなんなのですか。

姫、出てくる。

姫 伊吹様。これまでの長のお役目、ご苦労様でした。帝が御所にてお待ちでございます。どうぞお急ぎください。

伊吹 帝…！

姫 都の民もみな、伊吹様のお帰りをお待ちしております。何卒お急ぎください。ふざけるな！

伊吹 伊吹！

伊吹、姫に突っかかるうとするのを信綱が止める。

伊吹 トラが死んだんだぞ。

姫 ただの鬼でございます。

伊吹 トラが死んだんだ！それなのに…！

信綱 やめる！

信綱、伊吹を止めて、

信綱 もうやめてくれ。頼むから…！

伊吹 兄様。

信綱 分らんか、伊吹。これ以上、お前が逆らえばそのときは…！

呪い師たち、出てくる。

呪い師 また戦の世となろう。

伊吹 お前…。

同時に都人たち、弥三郎たちに刀を向ける。

弥三郎 ……！

呪い師 伊吹。そなたがあくまで都に逆らうつというのなら、それも構わん。だがその時は、再び鬼と呼ばれることになるぞ。そなたも、この者たちもな。

伊吹 なに。

呪い師 伊吹。ななに、大したことはない。ただ忘れればいいだけのことよ。忘れる？

呪い師 この者たちのことを、共に過ごした日々を、そしてこの悲劇を。
伊吹 ……
呪い師 悩むことでもあるまい。この者たちを忘れ、都で幸せに暮らしていくか、この者たちと
鬼になり、永遠の戦の中に身を投じるか。さて、どうする。
伊吹 ……
信綱 伊吹…頼む…！
伊吹、立ち上がる。
伊吹 いったいオレたちは、どれほどの哀しみを忘れて生きているのでしょうか。平和なこの
国を築き上げる、そのために、どれほどの鬼を退治し、その思いを踏みつぶして生きて
いるのでしょうか。
伊吹、御殿へと向かっていく。
弥三郎 伊吹…。
伊吹 …ごめんな。
伊吹、去って行く。
姫 伊吹様のお戻りです。都に住まう者たちよ、平伏して出迎えなさい。たった今よりこの
お方は、鬼を捨て、人と成られたのです。
伊吹を先頭に、去って行く信綱たち。
取り残された弥三郎と呉葉たち、熊蔵。
呉葉↑ あんた…。
弥三郎 あかんかった…。
呉葉↑ ……。
弥三郎 人間、バカな夢を見るもんじゃねえな。ちよつとだけよ、思っちゃったんだ。ひよつと
したら、オレも幸せになれるんじゃないか。…行くつか。
どこにさ。
山に帰るんだよ。言われたろ。全部忘れろって。
……。
トラの言った通りだ。人間幸せになると、もっと幸せになりたくなる。そうなりや、あ
いつを恨まなきゃいけない。そしたら今度はだれが死ぬ。お前か、それともオレ
か？
……。
呉葉↑ やめようや。もう十分だ。なんもかんも、全部忘れて、のんびり生きてくさ。行くぞ。
弥三郎 弥三郎、去ろうとする。
だが、呉葉は動かない。
クマ 姐さん…。

呉葉1 …あたしは忘れないよ。

弥三郎 呉葉。

呉葉1 忘れられるわけじゃないか。これまでいったい、どれだけ苦しい思いしてきたと思
うんだい。それを、全部なかつたことにしろって？冗談じゃないよ。

弥三郎 もうやめる。

呉葉1 あたしは嫌だね。あたしは絶対忘れない。村を追われた日のことも、あなたと出会って、
山で過ごした日々も、トラが死んだことも…！

弥三郎 呉葉。

弥三郎 だってあたしは、生きてた。

呉葉2 ……！

呉葉2 あたしは生きてきたんだ。苦しいこと、哀しいこともあったけど、それでもあたしは生
きてきたんだ。それをなかつたことになんかできないよ。それじゃあ、あたしはいつた
いなんのために生まれてきたんだい。

弥三郎 ……。

弥三郎 トラだってそうさ。あいつは生きてた。ここに生きて、必死に戦って、そして死んだん
だ。それを全部忘れて、なかつたことにしろって？ふざけるんじゃないよ！人はね、人
がこの世に生まれ、必死に生きたそのことだけは、なにがあっても忘れちゃいけない
だ。だから…。

呉葉1、弥三郎を見て、

呉葉1 行きな。

弥三郎 ……。

呉葉1 人と鬼が、どうやったら手を取り合えるのか。そんなことはあたしには分からない。で
ももし、あなたと伊吹が結ばれるなら、ひよっとしたら、ほんの少しでも、何かが変わ
るかもしれないよ。

弥三郎、呉葉を見つめて、

弥三郎 また…鬼になるぞ。

呉葉2 分かってるさ。

弥三郎 今度こそ、戦になるぞ。

呉葉3 たとえ今は戦でも、いずれ変わるよ。…千年の未来にはね。

弥三郎 ……。

クマ 姐さん、もし都と山が一緒に生きていけたら、きっと楽しいこと、もっといっぱいある
んじゃないかな。だって山のみんなだけでも、けっこう楽しくやれたんですから、人がた
くさん増えたら、その分楽しいこともたくさん増えるんじゃないかな。

呉葉1 どうするんだい。頭はあなただ。あなたの命令に従うよ。
頭。

クマ 弥三郎、刀をとる。

弥三郎 …お前くらいで満足するのも、悪くないって思ってたんだがな。
呉葉1 惚れた女も取り返せないようなやわな男は、

呉葉たち
ごめんだね。
弥三郎
言ってくれんじゃねえか。

弥三郎、刀を抜くと同時に都の侍たちが入ってくる。

弥三郎
…死ぬんじゃねえぞ。
呉葉たち
さっさと行きな！

弥三郎たち、駆け出していく。

呉葉1
分かってるね、弥三郎。
呉葉2
大事な女は死んでも守るのが、男ってもんだ。
呉葉3
二度とあの子の手、
離すんじやないよ。
呉葉たち
殺せ！
都人1

呉葉、斬られる。

都人1
殺せ、殺せ！鬼も、鬼に連なるもの共も全て、皆殺しにしろ！

S11 都

一方で、都へと乗り込んでいく弥三郎。

弥三郎
どきやがれ！今日はこの弥三郎様、ちっとばっかしキレてんだ。痛い目見たくなきゃ、
さっさと道をあける！

武士たちと戦う弥三郎。
そこに、与平たちが駆け込んでくる。

弥三郎
お前たち…！

伊吹様は今、御所へ。どうぞお早く！

弥三郎、与平1を見て、

弥三郎
いいのかよ。せっかくトラがくれた命だろうが。
与平1
あいつは幸せになれていったんです。あいつを忘れて、幸せになんかなれますか！
弥三郎
よっしゃ！

別の所から、信綱も武士たちと戦いながら駆け込んでくる。

姫
信綱様！あなた、あたしを裏切るつもり！？
信綱
オレはただ、けじめをつけたいだけだ。
あたし、絶対許せない！やっちゃって！

弥三郎、信綱をかばう。

弥三郎

ツナポン！

信綱

ツナポンって言っとな！

弥三郎

一人で御所に斬り込む気だったか。

信綱

…すまん。

弥三郎

気にすんなって。友だちだろうが。

都人1

鬼を殺せ！

殺陣

S

伊吹、出てくる。

呪い師1

伊吹…。これが日本だ。豊かであらんとする、全ての民草の意思だ。

伊吹

……。

呪い師2

分かっているでしょうね。あなたがどこへ行くことも、都は追いつける。そなたが心通

呪い師1

人と成れ、伊吹。これ以上、鬼を作らぬためにも、弥三郎を斬れ。

呪い師たち、去る。

弥三郎、出てくる。

弥三郎

よう。

伊吹

……。

弥三郎

どうした。暗いじゃねえか。せっかくこんないい男が迎えにきてやったのによ。ちょっとは笑顔で迎えてくれよ。

伊吹、刀を構える。

伊吹

なんで来た。

弥三郎

……。

伊吹

なんで来たんだよ。

弥三郎

オレがいねえと、寂しいんじゃないかと思っつてよ。

伊吹

バカやろっ…。

弥三郎

…言葉もねえ。

伊吹

お前が来るから、オレはお前を斬らなきゃいけないなくなっちゃったじゃねえか。

弥三郎

……。

伊吹

もうだれも、傷つけたくなかった。もうだれも、鬼にしたくなかった。お前に生きていて欲しかった。たとえ共に暮らせなくても、どこかに生きている。幸せに暮らしている。

弥三郎

それだけでオレには十分だったんだ。大好きなお前を…失うくらいなら…。

弥三郎

伊吹。

伊吹 来るな！来れば斬るぞ。オレはもう、都で幸せになるって決めたんだ。

弥三郎 だったらお前は、なんで泣いてんだ。

伊吹 ……。

弥三郎 泣いてんじゃないか。これから幸せになるうって女がよ。なんでそんな悲しそうな顔して泣いてんだ。お前がオレを斬って、それで本当に幸せになれるって言うんなら、オレは何度だって死んでやる。でもな、お前本当にそれでいいのか。それがお前の望んだ幸せか？

伊吹 ……。

弥三郎 どうすんだ。オレはもう鬼の名乗りを上げちまったからよ、退くわけにはいかねえぞ。お前がオレを斬るか、オレといっしょになるか。二つに一つだ。お前が選ばねえなら、オレはお前の首根っこ、ひつつかまえてでも連れてくぞ。

姫と呪い師たち、武士たちを引き連れて出てくる。

伊吹 オレがお前の所へいったら、また戦になるんだぞ。

弥三郎 そうだろつな。

伊吹 またたくさんの人が鬼と呼ばれ、苦しむことになるんだぞ。

弥三郎 そうだろつな。

伊吹 だったらそんなこと…！

弥三郎 んなことあ、関係ねえんだよ。

伊吹 なんで！

弥三郎 それでも、オレはお前に惚れてんだ！

伊吹 ……！

音楽

みんな、出てくる。

弥三郎 オレはお前に惚れてんだ。どっかで生きてりや十分だと。ふざけんじゃねえや。悪いがオレは欲張りだからよ。惚れた女は、この腕で思いっきり抱きしめてやんなきゃ、満足できねえんだよ。

呪い師たち 鬼を殺せ！

武士たち、弥三郎に斬りかかる。

弥三郎 訂正するわ。オレがいらないとお前が寂しいんじゃない。お前がいねえと、オレが寂しくて寂しくてしょうがねえんだよ。

弥三郎たち、戦いながら、

ク マ 伊吹さん、一つだけ教えてくれませんか。すべての鬼を退治して、鬼のいなくなったこの国は、本当に幸せな国なんですか。恐れをなくしたこの国は、本当に幸せな国なんですか。今この国は、本当に幸せな国なんですか。

与平一 私は思うんです。人が幸せであることを、当たり前と思うことほど哀しいことはないんじゃないかって。イヤなもの、嫌いなものを全部なくしてしまったら、人はどつやって

人の痛みを知らばいいんです。傷つくことを知らない人間が、どうやって人に優しくすればいいんです。

与平2

本当の豊かさって言うのは、人が、人の痛みを知ることなんじゃないんですか。痛みに耐えるその力のことを、優しさって言うんじゃないんですか。

信綱

だから伊吹、お前は人間だ。傷つき、苦しむことを知った人間だ。人間、この世に生きて、無意味なことなんて何一つないんだ。喜びも、悲しみも、幸せも、不幸せも、善も、悪も、人も、鬼も！全部認めて生きていくしかねえんだよ。

伊吹

喜びも…哀しみも…。

信綱

ああ。

伊吹

人も…鬼も…。

信綱

ああ、そつだ。

伊吹

そんなの無理だよ。

弥三郎、手を差し出す。

弥三郎

伊吹、この手を取れ。人は人と触れ合って初めて人になれるんだ。苦しみを分け合って、支え合って初めて人になれるんだ。そのためにオレたちは出会ったんだ。そのためにこそ、オレはお前に惚れたんだ。

武士たち、弥三郎を取り囲む。

弥三郎

今から千年、

伊吹

今から千年、

弥三郎

たとえこの都がどれほど大きくなろうとも、人と人が触れ合う距離は変わりはないだろう。今から千年、

伊吹

今から千年、

弥三郎

たとえ人が世界の果てまでもたどり着き、この世を支配したとしても、人と人が見つめ合い、抱き合える距離は変わりはないだろう。

伊吹

……。

弥三郎

伊吹、お前は分かっているはずだ。こいつらが本当に殺そうとしているものがなんなのか。鬼とは畏れた。畏れることを忘れた人間は、敬う心も失うだろう。畏れを失くした人間は、愛する心も失うだろう。鬼を殺した人間は、神をも殺すだろう。神とは、良心のことなのだから。人が人を敬う、優しさのことなのだから。

伊吹

……。

弥三郎

この手を取れ、伊吹。オレは二度とお前を離さない。たとえどれほどの苦しみがオレたちを襲ったとしても、どれほどの哀しみに心引き裂かれたとしても、お前の涙は全部オレがぬぐってやる。だから伊吹、この手を取れ！

呪い師1

伊吹！

弥三郎

人になるには、我らに従う他はありません。弥三郎を斬りなさい。

呪い師2

この手を取れ！

弥三郎

伊吹！

呪い師たち

伊吹！

伊吹

…弥三郎！

呪い師たち 殺せ！

音楽

手を取り合おうと、駆け寄っていく二人。
その二人に、武士たちが斬りかかって行く。
斬られながらも、伊吹の元にたどり着く弥三郎。
だが一人の刀が弥三郎の体を刺し貫く。
伊吹の腕の中に倒れる弥三郎。

伊吹

弥三郎！

弥三郎、伊吹の手を取って、

弥三郎

…捕まえてやったぜ。

伊吹

お前…バカだよ。オレのことなんか放つときや、こんなこと…。

弥三郎

苦勞がでつけえ方が、幸せもदैかいつてもんよ。オレは今、最高に幸せだ。

弥三郎、倒れる。

伊吹

おい、どうした。シャキッとしろよ。お前、言ったじゃねえか。ずっとオレの側にいる
って。オレを二度と離さないって。なあ…目を開けるよ。もうオレを、一人にしないで
くれよ。おい！

弥三郎

一人じゃねえさ。お前はもう…一人じゃねえ。

弥三郎、ゆっくりと立ち上がると、

弥三郎

泣くんじゃねえよ。オレはピーピー泣いてる女は嫌いなんだ。

伊吹

弥三郎…。

弥三郎

人はいつか気づくだろう。人を鬼にする愚かさを。共に生きることの豊かさを。だから
その日まで…オレたちが本当に手を取り合えるその日まで、ちよつとの間のお別れだ。

武士たち、刀を構える。

弥三郎

伊吹！千年の、未来で会おう！

伊吹

弥三郎！

弥三郎、斬られ、倒れていく。

音楽

倒れる弥三郎を、抱きしめる伊吹。

それは冒頭の二人の姿そのままである。

麻呂、鬼がいた所に立ち、

呪い師たち こうして、鬼が死んだ。

S12 現代

遠くから、パトカーのサイレンが聞こえてくる。

呪い師1 あれから千年、二人の定めは変わらねえ。何度生まれ変わろうと、何度巡り合おうと、二人が手を取り合うことはねえ。

呪い師2 鬼は、鬼だから。人は一度手にした豊かさを、手放すことは決してない。より大きな幸福を求め、繁栄を求め、敵を、邪魔なものを、不愉快なものを…鬼を退治し続ける。

呪い師1 それでいい。人は、豊かにならねばならないのだから。だれかを鬼にしなくては生きていけないのだから。

呪い師2 人々よ、鬼を作れ。そして殺せ。

呪い師たち、去ろうとする。

その時、伊吹が刀を突きつける。

伊吹 ふざけんなよ。

呪い師たち ……！

伊吹 人が人を鬼にしなきゃ、生きていけないって？だったら…

伊吹、ゆっくりと立ち上がる。

伊吹 だったら、オレが鬼になってやる。

呪い師たち ……。

伊吹 オレが未来永劫、この国に住まう鬼になる。人の心に潜む畏れになる。

呪い師たち ……。

伊吹 人は豊かな国を手に入れて、なにを失った。耐えることを失った。人を思いやることを失った。罪の重さを失った。そして人は知ってしまった。人を傷つけることのたやすさを。傷つく前に、傷つけることの気楽さを。

呪い師たち ……。

伊吹 忘れるな。この世に鬼はあるのだと。たとえこの身が減ほうとも、オレは永遠に人の心に在り続ける。それがお前の作ったこの国への、私の戦だ。

呪い師たち 貴様…！

伊吹、麻呂を斬る。

伊吹 オレが鬼なら、お前はなんだ。

音楽